

2026 年度 事業計画

2025 年度は、学校全体でディプロマ・ポリシー（※参考掲載参照）を検討し、社会及び医療に貢献できる人材を育成することを目標に学校運営に取り組んだ。また、学生募集においてもオープンキャンパス、高校訪問、進学情報WEBサイトの活用、同窓会組織との連携など全職員が一丸となって取り組んだ。18 歳人口の減少や大学志向の高まりの下で受験者数が減少している中、多様な学生を受け入れ、1 人でも多くの医療職を育成することを通じて、京都私立病院協会会員病院を始め、地域の医療に貢献することを目指して取り組んだ。

2026 年度も学生募集は非常に厳しい状態である。学校を存続できるよう、引き続き学生募集活動を強め、志願者の大幅な増加を図る。教学面では、三学科を有する本校の強みを活かした多職種連携教育・地域貢献活動を実践する。そうした活動を通じて、京都私立病院協会の会員施設や地域社会からより一層必要と感じてもらえることを目指すとともに、学生や教職員の満足度も高まる学校運営に努める。

このような方針の下、2026 年度は以下のとおり目標を掲げて、取組を進める。

◆事業計画目標：

「歴史と伝統ある本学の継続的・安定的な運営を担保する学生数（**新入生 120 名**）の確保」

「多職種と協働し、地域の医療・保健・衛生の維持発展に貢献できる医療人の育成」

◆具体的な取組：

1. 最重要運営課題として学生募集活動に全教職員で取り組む。

学校運営の継続を可能とする学生数を維持し、一人でも多くの医療専門職を京都の医療界に送り出せるよう、2025 年度の取組実績を踏まえつつ、全学の知恵と力を結集して、学生募集活動を強める。

① オープンキャンパスの充実

◎開催回数：30 回、参加延べ人数：240 人、OC 参加者からの出願率：50%

- ・志願者のニーズ（夏休み、日曜日、夜間、短時間、オンライン）に徹底して寄り添うメニューで展開する。
- ・来校者の歩留りを高めるため、可能な限り 1 on 1 で対応できる体制を組む。
- ・保護者の方に本学を選んでいただけるよう、要望・関心に即した個別相談を行う。
- ・2 回目以降の参加交通費（定額）を支給するなど、参加者の負担を減らす。
- ・進学情報サイトで競合校・府内イベント検索者を対象とした割り込み広告を実施する。

② 効果的な高校訪問の実施

◎訪問校（社）数：100 校（社）、延べアプローチ回数：250 回

- ・2025 年度訪問時に得た情報に基づいて有望校を選定し繰り返し接触して関係を構築する。
- ・OC に参加してくれた受験生の在学高校（大学）を必ず訪問して関係を構築する。
- ・進学情報企業の学事事業と連動した高校訪問を行う。
- ・高校の進路指導に活用しやすい職業紹介広報資材を作成する。

③ 卒業生組織との連携 <充実>

◎卒業生を通じた募集資料配布数：200部、病院訪問数：10病院

- ・看護学科同窓会、臨床検査技師校友会及び臨床工学技士専攻科同窓会の協力を得て、連絡可能な卒業生全員に本学受験の案内を送る。
- ・学生募集広報の充実のため、広報資材の作成協力や広報費の財政支援をお願いする。
- ・医療界で活躍する卒業生に対して、職場の資格取得希望者への本校紹介を依頼する。
- ・卒業生をOCに招き、本校の良いところ・学びの特色のPR講話を依頼する。

④ 行政機関との連携

◎「長期高度人材育成コース」として採用される

- ・臨床工学技士特科が、京都府の公共職業訓練「長期高度人材育成コース」として採用されるよう働きかけを行うとともに、必要な規程整備等を行う。

2. 三学科合同で教育・地域貢献活動を展開する。

① 学科合同による多職種連携教育の充実

- ・三学科合同：「症例検討から学ぶ多職種連携—RCPC から考える病態理解とチーム医療—」
RCPC 形式の症例検討を通じて、看護師・臨床検査技師・臨床工学技士がそれぞれの専門的視点から病態を推定し、チーム医療における役割と連携について理解を深める。
- ・検査→看護及び工学：心電図検定基礎講座、臨地実習研究報告会を開催する。

② 学科合同による地域貢献活動の推進

- ・「まちの保健室」の経験を活かして地域貢献活動を実施する。
- ・災害時医療などに関する市民公開講座を開催する。
- ・高齢者施設等に通所されている方々に、学校祭などで発表の場を提供する。
- ・京都の文化の継承、自然環境の保全等に関する取組に参加する。

3. 多様な学生への細やかな支援を行う。

◎年間退学者数：2025年度比合計10名減

① 幅広い学生相談の実施 <充実>

- ・学生相談室と連携し、個人情報や秘密保持に留意しつつ、長期休業や休・退学につながりやすい悩みの解決に学校として取り組む。
- ・人間関係の悩みに対して、医療を志す者の倫理に関する一般指導を行うとともに、学生の意向を踏まえつつ個別介入も辞さない姿勢で臨む。

② 学習方法、学習習慣獲得のための支援

- 1)看護：・全学年を通じて主体的学習や課題解決力が身につく支援を行う。

1年生➡記憶アプリ（”ものぐさ”）の活用、リメディアル教育・個別学習支援

2年生➡国試問題を使ったグループ学習会による学習方法指導・個別学習支援

3年生➡少人数・個別指導による国家試験対策

- 2)検査：・LMS（学習管理システム）を活用して個々の学力に応じた指導を実施する。

- ・早期からのゼミ（個別指導）によるきめ細かな学修支援を行う。

- ・リメディアル教育の充実による学力の底上げを行う。
 - ・学会参加を通じて臨床検査技師としての志を育み、学修意欲を高める。
- 3) 工学：・学生同士が互いに学修することで、コミュニケーション能力の向上を図る。
- ・早期に成績不良者を見つけ、個別指導による学修支援を行う。

4. 関連業界との連携を強める。

① 学生の進路となる業界のニーズ把握 <充実>

- ・卒業生満足度調査と就職先の管理者アンケートを実施し、教育内容の充実に活かす。
- ・臨床現場・職能団体との意見交換を年1回以上行い、業界の要望・意見を教職員が共有する。

5. 教職員がより生き生きと働ける学校運営を目指す。

① 働き方の最適化

- ・教材研究や授業資料作成など教育の質向上のためにより多くの時間を確保できるよう、専任教員の業務負担を軽減する。
- ・専任教員欠員解消のため関係団体に適任者（退職者等）の紹介を要請
- ・指導要領を定式化するなどした上で講義を非常勤講師にシフト
- ・事務職員へのタスクシフトを促進

② ワークライフバランスの向上 <充実>

- ・働きやすさ向上のため、休暇制度の運用を検討する。（例：私傷病を理由とする特別有給休暇承認、年1日のアニバーサリー休暇取得の奨励等）
- ・夏季・冬季休暇以外に1週間程度のまとまった休暇取得が可能となるよう業務調整を行う。
- ・ライフスタイルに応じた柔軟な勤務形態の在り方を検討する。

③ モチベーションの向上

- ・日常業務や事業計画の取組における「頑張り」が評価されていることを”見える化”し、誰もが実感できるよう、人事評価制度を補完する取組を検討する。（例：ピアレビューや部下評価、インセンティブ付き表彰制度の導入等）

④ 業務の効率化

- ・物品購入やサービス関係の諸手続きにおける提出書類の簡素化や業務全般のペーパーレス化・電子化を進める。
- ・Adobe 等業務アプリケーションの有料サービスの導入、学費・購買・人事等のデータ管理について業務処理ソフトの機能活用と一元化を進める。

⑤ 情報の共有と双方向の意思決定

- ・事業計画目標の達成状況や学校の財務状況等の情報を全教職員が共有し、翌月の取組を考えるための「全員会議」を月1回（10分程度）開く。
- ・学科会議・事務所会議において学校運営の改善提案を募り、実現を図る。
- ・経営に関する自己研鑽のための支援、環境整備を行う。（例：セミナー受講促進、図書配架）

※参考掲載

【ディプロマ・ポリシーを構成する能力】

1. 他者を尊重できる豊かな人間性と倫理観を有している
人間の尊厳・権利を尊重、平等、信頼関係構築、職務の行動基準を遵守、社会正義、品位、思いやり、自己・他者理解
2. 専門職として必要な知識・技術を身に付けている
教育課程修了⇒単位認定
3. 課題解決に向けて、主体的に取り組むことができる能力を有している
自己理解、課題把握、探求・探究、自己研鑽、継続学習、キャリア開発、相談
4. 多職種と協働できる能力を有している
職種の役割理解、多職種理解、協調性、コミュニケーション能力(アサーティブ、報告連絡相談)
5. 社会の変化や保健医療福祉のニーズに関心をもち、柔軟に対応しようとする能力を有している
社会・医療情勢への関心・情報収集、変化に対応、発信、自分にできることは何かを検討・行動